

# エピソード29

## 「家に帰りたい！」



なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験  
があります。エデュサポネットのファ  
シリテーターです。



小学校の中学年を担当した時の  
経験をお聞きします。

さとしくんは、入学後「家に帰りたい」  
と泣いて教室にいられず、学校を  
飛び出してしまってお子さんでした。

保護者と学校で相談し、そんな時は、  
教頭先生が家庭に連絡し、お母さんが  
迎えに来て早退することになっていました。





迎えに来たお母さんの様子は  
どうでしたか。

お母さんは「がんばりなさい。がんばれ  
ないの？」と話していたので、決して家に  
連れて帰りたいわけじゃないと思いました。

私が電話をするたびに、お母さんの声から  
苛立ちを感じました。お母さんも、どう  
したらいいかわからないのだと思いました。





その後のさとしくんの様子に  
変化は見られましたか。

3年生になって、プレイルームで過ごす  
ことが増えました。教頭先生や空いている  
先生がさとしくんに対応してくれました。

教頭先生は、お母さんからよく話を  
聞いてくれました。お母さんは「家では  
何でもないので」と話していたそうです。





その後の対応について教えてください。

さとしくんは、プレイルームだと落ち着いて過ごすことができたので、教頭先生が「ここでできることをやろう」と提案してくれました。

そこで僕は、学級とプレイルームが同じ時間に同じ内容でできるようなプログラムを作り、プリントなども用意しました。





さとしくんの様子はどうでしたか。

さとしくんは、教室にふらっと来られるときもあり、その時は教室で学習しました。でもいられなくなったら、いつでもプレイルームに行ってもいいと伝えていました。

行ったり来たりできる日もあれば、プレイルームで一日過ごす日もありました。





さとしくんの対応をしてくれた先生たちは、  
どんなことに気をつけていましたか。

「プレイルームのさとしくんではないの  
だから、教室やプレイルームで起こって  
いることは、担任からお母さんに話すこと。

そうすれば、教室に入れなくても、担任は  
ちゃんとわかってくれている、と安心する  
のではないかな。」と話してくれました。





先生たちの支援によって、  
さとしくんはその後どんな様子でしたか。

プログラムを決めてから、落ち着いて  
がんばるようになり、お迎えも減りました。

お母さんには、学級の子どもたちの様子や  
行事についても伝えて、さとしくんと学級  
のつながりが切れないように心がけました。







## なみちゃんの一言

- 教室にいれない子どもたちのために、安心して過ごせる居場所をどう作るか、とても大きな問題です。
- どこで、誰が、どんな支援ができるのか、子どもや保護者の気持ちを大切に、ケース会議等で学校としての対応が検討できるといいですね。
- 担任としてどう支えるかを考えることも大切です。

お・し・ま・い



イラスト 尾上樹里  
(北海道教育大学 大学院生)